

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900131		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム東船橋		
所在地	千葉県船橋市東船橋1-21-12		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年5月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成25年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりが“自立支援”を考え行動し、ご利用者が何を求め私たちに何が出来るかを考えサービスを提供している。また、1ユニットと規模は小さいですがご家族との信頼関係も築きやすく、「ホームはいつも行きやすく、スタッフに親しみを感じます。」のご意見も頂きました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると明るい笑い声と話し声が聞こえてきた。テーブルの配置を変えることで明るく開放的な雰囲気のリビングに変わっていた。「職員が働きやすい職場・職員が楽しく支援することが入居者本位のケアサービスに繋がる」と言う新しく赴任したホーム長の下、計画的に実施している研修などを通して職員一人ひとりの認知症ケアへの理解の向上・気付きの能力向上と均質化を図ることによって、「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフをサポートする・心を込めた親切なサービスに努めその心を磨く・様々な機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にする」との理念をチームワーク良く実践していくことが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流の場に参加できるように努力している。また、自治会長に運営推進会議に参加していただけるよう声掛けを行っている。	法人の掲げる3つの理念の実践に向け、したいこと・出来ること・出来そうなことを見守りながら、地域と関わりながら、その人らしい生活が出来る支援を目指している。入居者本位の支援ができるよう職員一人ひとりが楽しく支援するよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、自治会の行事に参加してる。 2月2日 ふれあいサロン参加 夏祭りも参加予定	自治会のふれあいサロンに参加し、入居者がお菓子を配って楽しそうに会話していた。自治会地域新聞を活用し行事への参加を増やしていく。自治会長がホームの夏祭りに参加された。散歩時の挨拶など徐々に地域との繋がりが出来つつある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	私達の持っている知識をまずはご家族に理解して頂ける様、ご家族に対し講習を開いた。 AED研修など。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見を大切にスタッフ間で話し合い改善をするようにしている。	入居者・家族・地域包括職員などの参加を得て、入居者状況・活動報告と予定・管理者変更について等を議題として、5回開催した。	入居者と家族しか出席していない会議が大半であり、今後、運営推進会議の趣旨に沿い民生委員や自治会長など地域の方達の参加を工夫されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談・報告を含めご協力を頂いてる。	高齢者福祉課担当者に毎月訪問し、指定申請のことや加算についてなど相談に乗って頂いている。地域包括支援センターには行った時担当者と面会している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内にて研修を実施。各スタッフが拘束について理解し業務にあたっている。	県の身体拘束権利擁護基礎研修受講者により伝達研修を行った。肉体的拘束だけでなく、言葉や薬により拘束や拘束の弊害などの職員理解が高まった。写真図解入りの「それは身体拘束ではありませんか？」掲示し日常業務で無意識に拘束に当たる行為をしていないかの意識をするようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、何が虐待に当たるかをスタッフ一人ひとりが認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料掲示し書式を閲覧できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をしています。変更等が生じた場合はその都度説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でご家族の意見を頂いている。	家族の面会頻度は高く、意見や要望などは言い易い雰囲気作りをしている。運営推進会議の場や誕生会・クリスマス会など家族参加の行事時や法人独自で実施しているアンケートでも多くの要望が出されている。ハード面などすぐ対応できない要望もあるが、光熱費や訪問診療医師など検討して対応し活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個々の面談を通し意見を頂いている。	毎月の全体会議やユニットリーダーとの個人面談など職員の意見を聴く機会を設けている。シフトの時間変更や休憩時間、ミキサーの予備の購入など運営には取り入れている。新ホーム長は働きやすい職場、職員が楽しく仕事できる職場こそが入居者本位の支援に繋がると考えており随時その時々職員からの意見を聞くようにしている。法人として職員提案制度もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価等にて評価を偏り無く行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれに合ったステップアップに向けての研修を開催している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設へ営業を兼ねて訪問を実施。また、船橋市グループホーム連絡会への参加も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用前にご本人・ご家族と面談をし、要望を取り入れアセスメント作成をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用前にご本人・ご家族と面談をし、要望を取り入れアセスメント作成をしている。また、ご家族の不安等に傾聴し対応している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族の意見、ホームとしての意見を合わせ多くの選択肢を用意し対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一方的な介護ではなく、ご利用者主体の介護の中で協力し合っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>居室担当を通して本人様の事を考え支えていく姿勢を取っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族が外出時に馴染みの美容院へ連れて行って頂いている。また、思い出の場所の写真やお話をさせて頂いている。</p>	<p>定期的に外泊をする方、家族が馴染みの美容院へ連れて行く方、馴染みのファミレスに行く方、東部デパートに買い物に行く方や行きつけのクリーニング屋さんを使っている方、大神宮そばに住んでいた方に写真をお見せして懐かしんで頂く等馴染みの関係を継続する支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>皆でいる時間、一人で過ごす時間を提供している。また、会話が困難な場合は職員が入りコミュニケーションをとれるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退去された方のご家族が訪問来られることもあったようですが、最近では退去された方がおりません。退去後も関わりが持てるような環境作りをしています。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志の把握に努め、スタッフ間で話し合いケアの方向性を検討している。	入所時に、今まで関わっていた施設・病院等から情報を収集している。併せて、本人と家族より話を聞き、センター方式の心身の情報シートを作成し、思いや意向を把握している。入所後は日頃の様子や言動を、スタッフ間での申し送りノートより情報を共有し、月1回の全体会議で、本人が支援してほしいことを読み取れるよう、検討している。家族には面会時に話を聞いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族から生活歴などを聞き、生活環境やサービスに反映させている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事等でお手伝いをして頂ける方には、積極的に参加して頂き今までの生活を維持して頂く。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	発語がなく意思疎通が難しいご利用者に対しては家族の意見を聴き、介護計画を作成している。	ご本人と家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聴いている。問題がある場合は、現場でスタッフ間の中で話し合い、その場で解決する場合もある。全体会議では申し送りノートの情報より、ケアや事故防止について話合っている。居室担当者がお便りにて、毎月の様子を家族に知らせている。	申し送りノートでの情報共有及び現場や全体会議での話し合いは行われています。本人と家族の状況は、刻々と変化している為、さらに現状と介護計画がかみ合うよう工夫し、アセスメントとモニタリングに基づいた介護計画の見直しを実施されることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを使用し報告・連絡・相談をしケアプランに活かせるように、少しの変化も見逃さぬよう努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のサービスだけにとらわれず、多くのご家族やスタッフの意見を聴き、色々な目線で物事をみるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設のスタッフとの挨拶などを行っています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、提携先の往診医による往診を受け相談等行う。	入所時に話し合い、在宅医療専門医により月2回の往診を全員が受けている。医師とは24時間オンコールである。往診時には職員が立ち会い、適切な医療を受けられるよう支援している。訪問看護はバイタルチェックや爪切り、排便におけるの処置等、必要に応じて対応していただいている。個々の医療ファイルには医療関係の書類が見易くファイリングされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護を受け相談や指示を頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎週入院者の面会に行き、看護師や主治医と毎回情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族にご説明しサインを頂いている。今後重度化した場合は、主治医・ご家族との話し合いの場を設ける。	入所時に『重度化した場合における医療体制指針』及び『看取りに関する指針』を説明し、サインと捺印を頂いている。重度化した時に再度話し合いをし、家族が希望すれば、看取りを行う方針である。職員との合意はできており、研修も実施している。看取りの実績は、今のところない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年AEDを設置し、全スタッフが3回に分けて研修を実施。心肺蘇生の実施方法等学ぶ。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施。(内1回は夜間想定) 防火用自主点検表のチェックを毎日行い、出火しない環境作りを努めている。	消火訓練・避難訓練・通報訓練を実施している。防火用自主点検表では電気設備、点検作業の確認を毎日チェックしている。スプリングクレーの設置は検討中である。備蓄は食料3日位分あり、非常食リスト表で、個数・消費期限の確認を行っている。近隣住民や施設等の協力体制も取り組み始めている。	いつ起こるかわからない火災に備えて、具体的な避難誘導策が考えられています。毛布での搬送等を職員が体験するとともに、非常階段までの避難・誘導など、避難訓練をレクとして、回数を重ねて実施するなど、避難手順を全職員が習熟することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりに声掛けを行う際、家庭的な雰囲気を作る為に親しみの持てる言葉遣いを心掛けているが、最低限の言葉遣いは注意している。	言葉遣い、声掛けの仕方に留意している。利用者によってはフレンドリーで親しみを持ってスタッフに接するので、雰囲気を損ねないよう、利用者に合わせた会話ができるように心掛けている。トイレ誘導は耳元で伝えたり、さりげなくお誘いしている。入浴拒否の方には、その気持ちを考え、その方に合った声掛けをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との意思疎通を毎日の会話から把握している。また会話の困難な方とも仕草や表情などで把握している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体の介護にならないよう心がけ、ご利用者主体の生活を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の趣味などをご家族から聞き、着用できるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや簡単な調理過程を手伝って頂き、食べるだけでなく食事全体を楽しんで頂いている。	本社栄養士が作成した献立において、買い物し、調理している。食器洗いをしたり、車いすに座っておしぼりをたたんだりする利用者がいた。刻み食1名・ミキサー食5名おり、適した形態の食事を用意している。焼きそばやどら焼き、マシュマロサンド等をホットプレートで皆で作ることもある。お茶の時間には日本茶・コーヒー・紅茶・ココア・スポーツドリンクを用意している。お誕生日会では手作りケーキを準備する。外食は家族が連れ出している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成のメニューに基づき、その方々にあった食事形態で提供。摂取量についても都度記録されている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方に対しては仕上げを、自身で困難な方に対しては介助にて実施。週に1度訪問歯科の往診あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、一人のスタッフで困難な場合は二人介助にてトイレ介助を行っている。	オムツは日中3名・夜間5名、リハパンは日中4名、布パン2名である。排泄パターン表を付けている。失敗しないようお誘いする回数を増やしたり、パットの大きさを検討する等、利用者それぞれに合った支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理表にて食事量・水分量を把握。脱水や便秘症状にならないよう注意する。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴して頂けるようにしている。また、その日の体調等も考慮し入浴して頂いている。	個浴で一人一人入浴する。介助はその人に合わせており、2人介助の場合もある。見られたくないと思う利用者には、スタッフが脱衣所で待機している。入浴中にノンアルコールビールを飲み、リラックスできた利用者がある。菖蒲湯等の季節のお風呂を楽しんでいる。入浴時間は決まっていない。入浴のチェック表があり、何日入っていないか、すぐにわかるようになっている。入浴困難な利用者は清拭で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に囚われず、傾眠されえていたら居室にて休んでいただく。また、夜間帯のトイレ誘導等の排泄介助も睡眠の様子からその方の状況を見て行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携先の医師や薬局の方に相談し、処方されている。また、新しく処方された薬を服用する際は、状態の変化を観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等でお手伝いをして頂ける方には、積極的に参加して頂いている。また、ご家族にその方の趣味などを聞き日々の生活に取組むよう努力している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園へ全員での散歩や、自治会の集まりに参加していただける方に参加をお願いしています。	「外へ出たい」という利用者は散歩している。「外を見たい」という利用者は外気浴をしている。近くのクリーニング屋さんやドラッグストアに行くこともある。行事での外出は花見や他のホームとの合同の音楽会であった。家族と外泊する利用者もいる。	職員間で連携し、時間を作り、さらに短時間でも筋力低下予防と五感刺激を得られる日常的な外出支援、または外気浴の機会を設けることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらでお預りしているおこづかいから、ご利用者が欲しいものや必要なものを購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への手紙を書いている方はお送りしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾を作る又は購入し、共有スペースへ飾り季節感を感じて頂けるよう努めている。	リビングは壁側に大きなソファがあり、利用者がくつろげる空間となっている。温度計/湿度計があり、加湿器や窓を開け換気する等の調整を行って、居心地良く過ごせるよう工夫している。壁にはホワイトボードで日にちと1日の献立が確認でき、お誕生日月の利用者の名が掲示されている。季節を感じていただける様、クリスマスやお正月等の飾り付けを心掛けている。できる掃除等は利用者をお願いしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて休まれる方やテレビを観られている方、自身の席で職員と話している方など、多くのご利用者に向けた環境作りをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談・協力していただき、馴染みの写真や壁飾りなどを持ち込んでいただきお部屋に飾っている。できるだけ、自宅の雰囲気近くに近づけるよう努めている。	ベット、エアコン、クローゼット、カーテンが完備されている。居室によって、畳の部屋や入口にL字手すり設置があった。馴染みの机、椅子、タンス、仏壇、テレビが持ち込まれている。冷蔵庫がある居室もあり、ノンアルコールビールが入っていた。壁には写真や書道の作品が飾っており、その人らしい部屋となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっていない箇所も多いが、スタッフができる範囲で工夫し安全面に考慮している。		